目次に戻る

「総合的な学習の時間」を考える
― 家庭科の視点から ―

Form the viewpoint “time of the overall learning” is considered
― which is a homemaking course ―

森　田　清　美
Kiyomi MORITA

キーワード：総合的な学習の時間の指導法・家庭科・ひろしま型カリキュラム

Ⅰ．はじめに

近年の日本の児童生徒の学力については，OECD（経済協力開発機構）国際学力調査・学習到達度調査（PISA）や全国学力・学習状況調査の「活用」に関する（B 問題）などのように，総合的な学力に関する評価手法が確立されてくるに至り，改めて今，現代社会で求められる「課題発見・解決能力」「論理的思考力」「コミュニケーション能力」などが，学校においても強く求められていると言える。この学力の定着を図るために，各地方公共団体の教育委員会においても様々な取り組みが行われている。一例では広島市教育員会が全国学習力・学習状況調査の結果から，小学校・中学校ではひろしま型カリキュラム [1)]「言語・数理運用科」を導入し，児童生徒の自ら学び自ら考える力・「生きる力」の育成をめざした取り組みをしている。

総合的な学習の時間は，学習指導要領が適用される学校のすべて（小学校，中学校，高等学校，中等教育学校，特別支援学校）で 2000 年（平成 12 年）から段階的に始められた。その名称は，各学校で独自に定めることになっていた。この時間は国際化や情報化をはじめとする社会の変化をふまえ，児童生徒の自ら学び自ら考える力・「生きる力」の育成をめざし，教科などの枠を越えた横断的・総合的な学習を行うために生まれ，内容として，国際理解，情報，環境，福祉・健康などが学習指導要領で例示されているが，この授業は基礎知識を軽視している，学力低下につながるとの批判や指導者である教師への負担が多いなどの課題があげられている。

平成 31 年度から新中学校学習指導要領 [2)] がスタートする。本学短期大学部では平成 31 年度より教職課程の変更に伴い，教員の免許状取得のための必修科目「総合的な学習の時間の指導法」が開講される。「総合的な学習の時間の指導法」の全体目標は，「総合的な学習の時間は，探求的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して，広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生活の課題を探求する学びを実現させるために，指導計画の作成および具体的な指導の仕方，並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける」である。松本 [3)] は，「総合的な学習は教科とは異なる発想が必要」と述べている。しかしながら，授業を担当する教員は，いずれかの教科を受け持っている。

本研究では，中学校二種免許状（家庭，美術）教員養成課程を持つ本学短期大学部において，授業担当者としてどう取り組むかを「教科」と「総合的な学習の時間」との関係をふまえ，中学校教員をめざす学生への授業展開に活用することを目的とした。

Ⅱ．方法

1．調査対象・時期

調査対象・時期は，2018 年 10 月教職課程の履修者 1 年次生 10 名を対象に，無記名自記式アンケート調査を行い，調査の趣旨を説明して調査の同意が得られた 10 名の回答を得た。（有効回収率 100％）

2．調査内容

学生が小学校･中学校･高等学校で「総合的な学習の時間」を学んだことの有無，小学校･中学校･高等学校で「総合的な学習」を学んだ内容をあげさせた。また，中学校「技術・家庭」で「総合的な学習」として取り上げたら効果的な学習内容を自由記述させた。

Ⅲ．結果

1．学生が小学校・中学校・高等学校で「総合的な学習の時間」を学んだことの有無

図 1 に学生が小学校･中学校･高等学校の「総合的な学習の時間」を学んだことの有無については，小学校で学んだと答えた者 10 名，小学校･中学校で学んだと答えた者 7 名であり，小学校･中学校･高等学校で学んだと答えた者はいなかった。

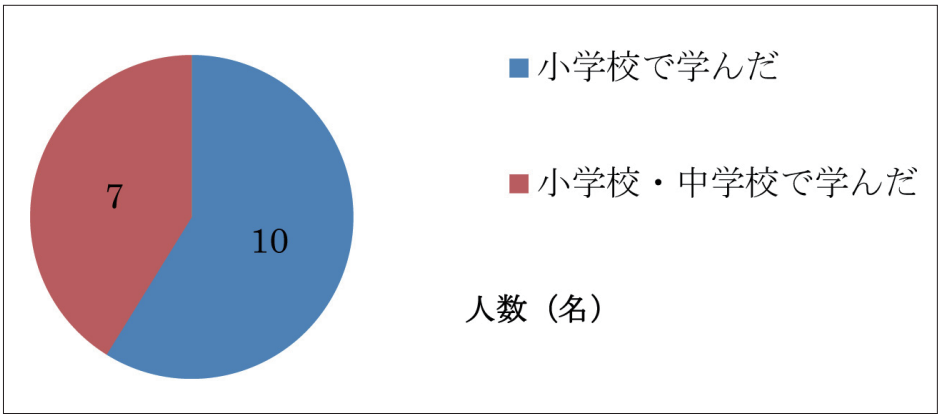


図 1．小学校・中学校で「総合的な学習の時間」を学んだことがあるか？

2．小学校・中学校・高等学校で「総合的な学習の時間」を学んだ内容

学生が小学校･中学校･高等学校で「総合的な学習の時間」を学んだ内容は，小･中学校での「平和」に関することと答えた者 16 名（小・中学校での重複を含む），小学校での敬老の日に地区のお年寄りへ手紙を書いて送ったと答えた者 9 名，小学校で米つくりをしたと答えた者 9 名，中学校での職場体験と答えた者 8 名，小学校での環境を考えるためゴミの分別と答えた者 3 名であった。

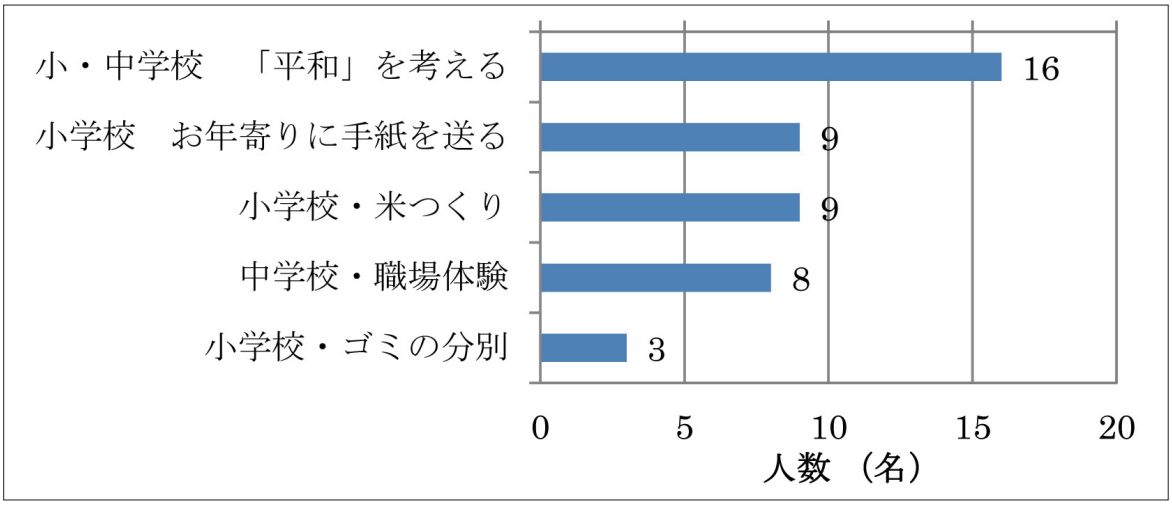


図２．小学校・中学校で「総合的な学習の時間」を学んだ内容は何か？

3, 中学校「技術･家庭」で「総合的な学習の時間」として取り上げたら効果的な学習内容（自由記述）

- ➢ 地域の食材を利用した調理実習をして，自分の住んでいる地域に興味を持たせる：2 名
- ➢ 敬老の日に地域のお年寄りに和菓子などをプレゼントする：1 名
- ➢ 地域の公園のゴミの状態を調べ，不法投棄禁止のためのポスターを作る：1 名
- ➢ 何も浮かばない：6 名

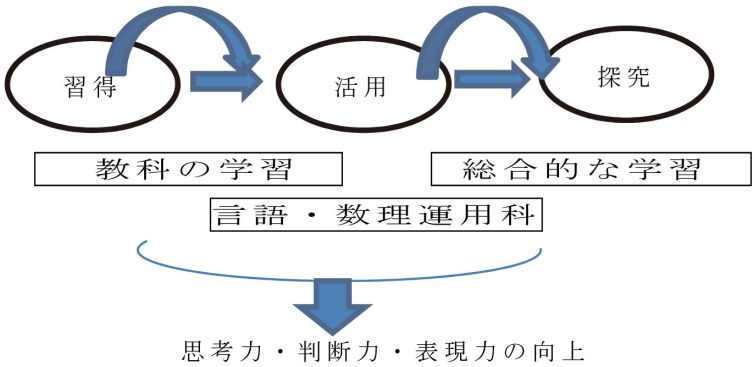
Ⅳ．考察

1）ひろしま型カリキュラム「言語・数理運用科」[1)]

広島市教育員会では，平成 19 年度の全国学力・学習状況調査の結果から，広島市の児童生徒の学力の状況は，基礎的・基本的な知識・技能の定着については各学校の指導の成果が現れているものの，学んだ知識や技能を活用し，思考・判断・表現する力に課題があることが明らかになった。

「言語・数理運用科」の目標：日常生活に見られる様々な事象について，テキストから目的に応じて必要な情報を取り出し，各教科等で身に付けた知識や経験と関係付けて思考・判断し，自らの考えを適切に表現する力を育成する。

「言語・数理運用科」の位置づけ模式図[1)]



【表 1】に「言語・数理運用科」において，教科「技術・家庭科（食の領域）」と関連単元名と目標を示す。【表 2】には，2 つの単元に関連する教科「技術･家庭科（食の領域）」での学習内容を示す。教科「技術･家庭科（食の領域）」で習得した教科の学習を活用し，総合的な学習へ探求し，思考力･判断力・表現力の向上を図るという「言語・数理運用科」の目標へと結びつけている。

【表 1】「言語・数理運用科」において，教科「技術・家庭科（食の領域）」と関連単元名と目標[4)]

学年	単　元　名	時間数	目　　標
中学 1 年	給食から食料自給率について考えよう	4 時間	給食の残食率と食料自給率にどのような関係があるのか考え，複数の資料から読み取った情報を関係付けて，日本の食料自給率が低下した原因を推論し，それをもとに食料自給率を上げるための方法を伝える新聞広告を作ることができる。
中学 3 年	広島の食材を守れ！	4 時間	地産地消に関わる資料から読み取った情報を関係付けて，地産地消の目的を推論して考え，それを紹介する 1 分間の CM ナレーションを作ることができる。

【表 2】2 つの単元に関連する教科「技術・家庭科（食の領域）」での学習内容

単元名	中学校での「技術・家庭科（食の領域）」での学習内容
給食から食料自給率について考えよう	①食材の品目別の自給率 ② 1 日の食事の変化 ③ 1 人 1 日当たりの食料のカロリー
広島の食材を守れ！	①地産地消の良い点 ②フードマイレージ ③生鮮食品の旬の利点（ほうれん草に含まれるビタミン C の変化）

2）「総合的な学習の時間」を行うにあったての課題

・教師が多忙なことによる準備時間の少なさ

「総合的な学習の時間」を効果的に行うためにあったては，十分な準備時間が必要である。しかししながら，教師が忙しく十分な準備時間が無いため，松本[3)]は満足のいく授業を行うことができない指摘をしている。また近年，公立学校の教員に課せられる事務処理の量が激増しており，現実問題として「総合的な学習の時間」を有意義に活用することは不可能という実情がある。そのため，広島市教育員会のひろしま型カルキュラム「言語･数理運用科」のような各教科等の学習を基にして，横断的・総合的な学習を設定する取り組みは有効と言える。特に，中学校での家庭科のように授業時間数が削減されている教科では，【表 1】に示したように「総合的な学習の時間で概要を学んだ後に教科で詳しく学ぶ」または「総合的な学習の時間で概要を学んだことを発展させた内容を学ぶ」ことは有効である。また「課題学習において，個人の力と集団内の総合的なフィールドバックがあり，学習の意義を高めあうことができる」さらに，取り組みによっては，3 つの面＝“生徒が育つ”“教師が変わる”“地域が広がる”という効果が期待できる。

3）現場の取り組み例から

筆者は，私立中学校教諭の際，夏休みに実施される学校行事，比治山学園附属施設である『比治山学園からまつ学寮』※の１年生林間学校の事前学習を「総合的な学習の時間」を利用し，【表 3】のような取り組みをした。入学後の間もない中学生にとって，“飯盒炊さん”による食事を班員で協力して作ることは，生活リテラシーを身に着けるという家庭科の持つ意義を明確な課題（夕食を自分たちの力で作る）として取り組みは，いわゆる横断的・総合的な学習であり，“生きる力”を育むための学習活動であったと言えるのではないか。前述した「課題学習において，個人の力と集団内の総合的なフィールドバックがあり，学習の意義を高めあうことができる」一例と言えよう。そして中学１年生は班員と協力し，学寮のある三和町の地域の方，保護者，中学１年生担当教員と関わり，交流（Exchange）する活動を通して，自信を深めることができた。

しかしながら，このような取り組みができたのは，筆者が教員 10 年目で，学寮のある地区の方との親交を深め，協力を得ることができ，学校においても保護者やさまざま先生方と協力体制が構築できたからである。そのためには，数年間の事前の下準備が必要である。前述した教師が多忙なことによる準備時間の少なさの事態では，教員の熱意のみでは到底できない取り組みと言える。

【表 3】１年生の林間学校の飯盒炊さん事前学習の取り組み

「目指せ！“飯盒炊さんマイスター”」		
目標	１年生『林間学校』の夕食「カレーライス」を班ごとに協力し，野外炊飯をする。	
取り組み	【学習の内容】	【協力者】
	①米つくりを学ぶ	学寮のある三和町の地域の方
	②米を調理実習室で炊く	家庭科の教員
	③火の起こし方を学ぶ（理科の授業）	理科の教員
	④飯盒炊さんでお米を炊こう	家庭科の教員，理科の教員
	⑤カレー汁の作り方を学ぶ	家庭科の教員
	⑥保護者の方に美味しいカレーライスを食べてもらう	*保護者及び三和町の方，校長・教頭先生，中学１年生担当教員

※『比治山学園からまつ学寮』広島県三次市にある中学・高校・大学の研修施設で旧広島県双三郡三和町上壱地区に存在する閉校した小学校を比治山学園が購入して利用

＊保護者；当日は授業参観日であり，事前に希望をされる保護者のみを示す

出所）筆者作成

このような「総合的な学習の時間」と技術・家庭科（食の領域）の関わりは，石井ら[5]が小学校の指導において，米の学習で社会科や理科との連携，総合的な学習の時間との連携によって教科の学習を豊かにすると報告している。

中学校教諭免許取得を目指す学生の「総合的の時間の指導法」の授業が，平成 31 年度から始まる。川村ら[6]は，小・中学校教師を対象とした「総合的な学習の時間」に関する質問紙調査における学習活動に関する調査結果の比較分析で，教師は学習指導要領改訂との関連で「総合的な学習の時間」を合理的に実践し，しかも限られた学習活動を効率的に行うことによって「総合的な学習の時間」を受け入れ可能なものとし，その学習の目標を着実に達成させつつあることが報告されている。さ

らに川村ら[6]は，その実践は教師が事前に設定した環境のもとで子どもを指導するものに変化しつつあり，教師は従来の日本型の授業スタイルの基本構造を変えない形で授業を行うようになってきている。その実践が，「総合力」を育成することに繋がっているかを検討する必要性があることを示唆している。

筆者の取り組んだ1年生の林間学校の飯盒炊さん事前学習は，教科（理科，技術・家庭科）指導をもとにし，“飯盒炊さん”をマスターし，夕食を自分たちの力で作るという課題を個人の力と集団学習で解決する学習である。そして，生徒を取り巻く3つ面＝“生徒が育つ”“教師が変わる”“地域が広がる”という効果をあげ，それは変容しながら，現在の様々な『比治山学園からまつ学寮』での教育活動となり活かされている。また広島市教育員会のひろしま型カリキュラム「言語・数理運用科」のような各教科等の学習をもとにして，横断的・総合的な学習を設定する取り組みは，教師の経験に関わりなく「総合的な学習の時間」で概要を学んだ後に教科で詳しく学ぶ，または「総合的な学習の時間」で概要を学んだことを発展させた内容を学ぶことに繋がる。特に，中学校での家庭科のように授業時間数が削減されている教科では，「総合的な学習の時間」には技能習得の意欲を持たせるという可能性が含まれると考える。

Ⅳ．まとめ

「総合的な学習の時間」は，変化の激しい社会に対応して，自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから，思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。教職課程の履修者1年次生は，アンケート調査では自分の小学校・中学校での「総合的な学習の時間」の学習の記憶は希薄であった。「総合的な学習の時間の指導法」の授業では，「総合的な学習の時間」の意義や教育課程において果たす役割について，教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点を理解させることが第一歩である。家庭科の視点からは学生が取り組みやすいテーマとして，①健康（食の領域との学習）②環境（循環型社会）③進路（ライフコース）を取り上げ，平成31年度から開講される「総合的な学習の時間の指導法」を模索したい。さらに次年度には「総合的な学習の時間の指導法」の実践報告し検討したい。

終わりにあたり，アンケートにご協力くださいました皆様に深謝申しあげる。

Ⅵ．文　献

1）広島市教育員会：すべての子どもに「確かな学力」を in Hirosima city（2013）
2）文部科学省：中学校学習指導案要領解説（総説）pp. 159 − 160（2019），東洋館出版社
3）松本勝信：平成11年度大阪府池田市教員研修会（教育課程）要旨
4）広島市教育委員会編纂：「言語・数理運用科」指導テキスト
5）石井克枝，佐藤孝子：「総合的な学習の時間」と家庭科食領域の関わり，千葉大学教育学部研究紀要第50巻Ⅰ：教育科学編 pp. 111 − 119（2000）
6）川村光，紅林伸幸，越田康詞：小・中学校における「総合的な学習の時間」の実践の変容，関西国際大学研究紀要13号 pp. 1 − 14（2012）